

ケア労働の国際移転
——アジアの状況から考えるグローバリゼーションの新局面——

伊藤るり

ito.ruri@ocha.ac.jp

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

ケア労働、ないし再生産労働の国際移転は、1990年代以降顕著となった、グローバリゼーションの新しい局面を構成している。その主要な特徴として、すでに以下の4つが指摘されてきている。

1. ケア労働の国際移転においては、従来の生産労働における労働力移動とは異なり、移住労働者に、家庭という私的で親密な空間で、家族の日常生活と絆を維持するための再生産労働の提供を求める¹。
2. 「代理家族」(Pei-Chia Lan)として配置される移住労働者の圧倒的多数が女性であることから、ケア労働の国際移転の拡大は、「海外就労の女性化」の促進要因にもなっている。
3. 移住家事・介護労働者は、ホスト社会の、主として高学歴共働き中間層家族を維持し、その世代更新を進める役割を担っており、このことをつうじて、ホスト社会・国家のグローバル資本主義経済における国際競争力を支えている。
4. ケア労働の国際移転で生み出される「グローバルなケアの連鎖」(Arlie Hochschild)は、「南」の社会における再生産労働の担い手を「北」の社会が吸引することで、新たな南北格差を出現させる。

この講義では、香港、シンガポール、台湾などの家庭で、家事・育児・介護などの、家族ケアを担う移住労働者——その大多数は女性——の問題を取り上げ、アジアの文脈で、上述のようなケア労働の国際移転がどのように展開しているのか、歴史的背景にも目を配りながら、考察する。また、この問題をめぐる異なる主体——国家(送り出し/受け入れ)、移住労働産業(派遣・仲介業者、訓練学校等)、移住労働者、雇用主、NGOなど——の利害関心と相互関係を検討する。

最後に、この作業をつうじて、日比経済連携協定(2006年9月署名)で課題となっている日本へのフィリピン人看護師と介護福祉士の導入と、それが日本社会にとってもつ意味について考える機会を提供できればと考えている。

¹ ケア労働を担う移住労働者は、家庭のみならず、各種介護施設でも働いているが、この講義は家族ケアの問題に焦点を当てるため、問題を家庭における就労に限定する。

■参考文献

- 安里和晃, 2001, 「香港における出入国管理と外国人労働者政策——1990年代の外国人家事労働者をめぐる処遇を中心に——」, 『国際移民の新動向と外国人政策の課題——各国における現状と取り組み——』(研究代表者: 梶田孝道) 法務省東京入国管理局の依頼による研究報告書, 9-27頁。
- , 2004, 「台湾における外国人家事・介護労働者の処遇について——制度の検討と運用上の問題点——」, 『龍谷大学経済学論集(民際学特集)』第43巻、第5号、1-28頁。
- , 2005, 「移動の世紀の〈再生産労働〉 1 不自由な労働力/外国人労働者の現在, クォーターリー[あつと]at1号、123-138頁。
- 足立真理子, 2003, 「予めの排除と内なる排除——グローバル化におけるジェンダー再配置——」竹村和子編『“ポストフェミニズム”』作品社, 99-104頁。
- 移住連「女性への暴力」プロジェクト編, 2004, 『ドメスティック・バイオレンスと人身売買——移住女性の権利を求めて——』移住労働者と連帯する全国ネットワーク。
- 伊藤るり, 1996, 「もう一つの国際労働力移動——再生産労働の超国境的移転と日本の女性移住者——」駒井洋監修、伊豫谷登士翁・杉原達編『日本社会と移民』(講座外国人定住問題第1巻)明石書店、243-271頁。
- , 2003, 「アジアNIEsのジェンダー・レジームと外国人家事労働者」竹村和子編『“ポストフェミニズム”』作品社, 94-98頁。
- 、小ヶ谷千穂、ブレンダ・テネグラ、稲葉奈々子, 2005, 「いかにして〈ケア上手なフィリピン人〉はつくられるのか? ——ケアギバーと再生産労働の『国際商品』化——」『F-GENS ジャーナル』第3号、お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」269-278頁
- 小ヶ谷千穂, 2001, 「国際労働移動とジェンダー——アジアにおける移住家事労働者の組織活動をめぐって——」梶田孝道編『国際化とアイデンティティ』ミネルヴァ書房, 121-147頁。
- , 2003, 「フィリピンの海外雇用政策——その推移と『海外労働者の女性化』を中心に——」小井土彰宏編著『移民政策の国際比較』明石書店, 313-356頁。
- サッセン、サスキア, 2001, 「グローバル経済のフェミニスト分析にむけて」(伊豫谷登士翁訳)伊豫谷登士翁編『経済のグローバリゼーションとジェンダー』245-275頁(=1998, “Toward a feminist analytics of the global economy,” in *Globalization and its discontents*, New York: The New Press. pp.81-109 [Reprinted from *Indiana Journal of Global Legal Studies*, 1996, vol. 4])
- 徳永理彩, 2002, 「ケア労働」伊豫谷登士翁編『グローバリゼーション』作品社, 132-133頁。
- パレーニャス、ラセル, 2002, 「グローバリゼーションの使用者——ケア労働の国際的移動——」(小ヶ谷千穂訳)『現代思想』6月号。
- Hochschild, Arlie Russel, 2000, “Global Care Chains and Emotional Surplus Value,” Will Hutton, Anthony Giddens, eds., *On the Edge: Living with Global Capitalism*, London: Vintage, pp.130-146.
- Huang, Shirlena; Brenda Yeoh, Noor. Abdul Rahman, eds., 2005, *Asian Women as Transnational Domestic Workers*, Singapore: Marshall Cavendish Academic.
- Lan, Pei-Chia, 2005, *Global Cinderellas: Migrant Domesticity and Newly Rich Employers in Taiwan*, Durham and London: Duke University Press.
- Oishi, Nana, 2005, *Women in Motion: Globalization, State Policies, and Labor Migration in Asia*, Stanford: Stanford University Press.
- Parreñas, Rhacel S., 2001, *Servants of Globalization: Women, Migration and Domestic Work*, Stanford: Stanford University Press.